



2023年2月21日  
東日本旅客鉄道株式会社

## JR 東日本は「リアルタイムデータ連携基盤」を構築し、 各事業者とのデータ連携を推進します

- 東日本旅客鉄道株式会社(東京都渋谷区 代表取締役社長:深澤 祐二/以下「JR 東日本」)は、列車の遅れや在線位置などのリアルタイムデータを集約・管理する、「リアルタイムデータ連携基盤」を構築し、交通案内サービスでの提供を開始します。
- リアルタイムデータ連携基盤の導入により、複数の交通事業者間でのリアルタイムデータの集約及びデータ活用が可能となります。また、各交通事業者は、経路検索などの交通案内サービス提供事業者に、自社のリアルタイムデータを提供できるようになります。
- 今後、交通事業者及び交通案内サービス提供事業者の更なる参画に取り組み、リアルタイムデータを主体とした交通案内サービスの更なる向上を目指します。

### 1. 機能概要

#### <名称>

リアルタイムデータ連携基盤 略称:RT-DIP(Real-Time Data Integration Platform)

#### <サービス開始日>

2023年2月21日

#### <主な機能>

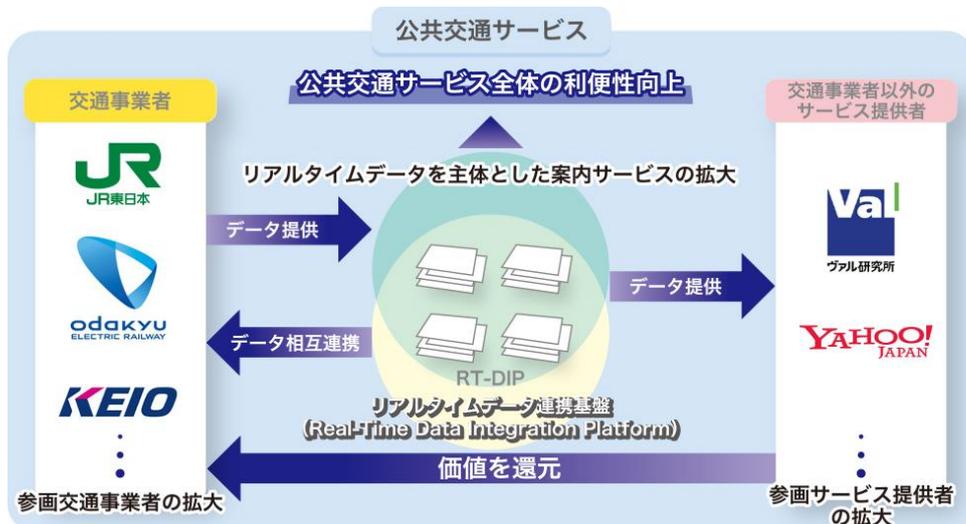
- ① 交通事業者のリアルタイムデータの集約機能
  - ・各交通事業者が持つリアルタイムデータの統一したフォーマットへの変換、管理
  - ・複数の交通事業者間でのデータ相互利用
- ② 交通案内サービス提供事業者へのデータ提供
  - ・路線検索などの交通案内サービスを提供する事業者へのリアルタイムデータの提供
  - ・交通事業者以外の事業者へのデータ活用機会創出

### 2. 事業スキーム概要

JR 東日本は、データの相互利用を推進するため、リアルタイムデータ連携基盤に各交通事業者のデータを集約します。さらに、リアルタイムデータ連携基盤を通じて、交通案内サービス提供事業者への有償によるデータ提供を行い、各種案内サービスの付加価値向上に取り組みます。

### 3. 参画事業者 (2023年2月21日時点)

交通事業者:JR 東日本、小田急電鉄株式会社、京王電鉄株式会社  
交通案内サービス提供事業者:株式会社ヴァル研究所、ヤフー株式会社



## 4. リアルタイムデータ連携基盤の利用例

<JR 東日本アプリのリアルタイム経路検索例>



<「Yahoo!乗換案内」「Yahoo! MAP」の遅延情報表示例>



<リアルタイムデータ連携基盤を導入する線区>

【JR 東日本】

- ・在来線：首都圏及び仙台圏の主な線区・区間
- ・新幹線：東北・北海道新幹線、上越新幹線、北陸新幹線、山形新幹線、秋田新幹線

【小田急電鉄】

- ・全線(小田原線・江ノ島線・多摩線)

【京王電鉄】

- ・全線(京王線・井の頭線)

## 5. 今後の展開について

今後、リアルタイムデータ連携基盤の更なる機能拡大に取り組むとともに、交通事業者及び交通案内サービス提供事業者の更なる参画に取り組み、リアルタイムデータを主体とした交通案内サービスの更なる向上を目指します。

## 6. その他

リアルタイムデータ連携基盤は、公共交通オープンデータ協議会※と連携し、有償データ流通スキームの一部として機能することを予定しています。

※公共交通オープンデータ協議会(東京都目黒区 会長:坂村 健)

交通・ICT 事業者等で構成される産官学連携の協議会。公共交通情報サービスの構築、標準プラットフォームの研究開発、公共交通政策提言等を実施している。